

施策 9 人権教育・道德教育の推進

1 現状と課題

人権とは、人間の尊厳に基づいて各人が持っている固有の権利であり、社会を構成する全ての人々が個人としての生存と自由を確保し、社会において幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利です。

学校教育においては、子どもたちが「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」という人権尊重の精神を涵養することが求められています。

また、学校の教育活動全体を通して行われる道德教育も、「特別の教科 道德」を要として、その充実を図っていく必要があります。

本市における、初任者を対象にしたアンケート結果を見てみると、学校での人権教育について肯定的に考えている初任者が多い一方、人権問題の解決については、毎年約3割の初任者が「何かしなければとは思いますが、何をしてよいかわからない」と回答しています。

今後は、教育活動における積極的な人権教育の指導につながるよう、人権教育担当者研修や基本研修などを充実させるとともに、道德教育全般や道德科における授業についての研修等を充実させ、人権教育・道德教育に関する指導力の向上を図ることが必要です。

2 事業

事業39	人権教育に関する指導力の向上（教育研究所）
概 要	多様性を認め合う人権尊重の理念について教員の理解を深めるため、関係機関と連携した人権教育の研修等の充実を図ります。 ○ 学校人権教育担当者研修講座の実施 ○ 人権教育指導者養成研修講座の実施 ○ 人権教育訪問研修の実施
事業40	道德教育に関する指導力の向上（教育指導課）
概 要	道德教育に関する教員の指導力を向上させるために、教職員が道德教育の指導上の諸問題を研究協議するとともに、道德教育全般や道德科における授業についての研修等の充実を図ります。

1 対象

小学校1年生～6年生、中学生

2 ねらい

「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」をもとに、子どもの権利について学び、自分の権利を知るとともに、他者の権利を尊重しようとする意識を高める。また、その意識を学級活動に生かそうとする態度を育てる。

3 準備するもの

○ワークシート

○グループ用ワークシート（A3）

○資料

○「子どもの権利条約カード」（黒板掲示用）…ユニセフウェブサイトにてダウンロード可

○「子どもの権利条約カード」（各グループへの配付用）…ユニセフウェブサイトにてダウンロード可

【ダウンロードURL】<https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryo/pdf/cardbook.pdf>

※事前に学年や学級の実状に合わせて、子どもたちに考えさせたい条文を選んでおいてもよい。



※（目安）低学年：5～10枚程度 高学年：10～20枚程度 中学校：20～30枚程度

4 解説

このワークでは「子どもの権利条約」に示されている子どもの権利について、自らが権利の主体であることを知ると同時に、自分もクラスメイトも持っている「権利」について考え、お互いの権利を尊重しようとする意識を高めます。

ワークの中で、「子どもの権利条約カードブック（第1条～40条）」（日本ユニセフ協会）を使います。発達段階や学級の実状によって使用するカードの枚数を調整し、話し合いながらお互いの権利について学ぶことができます。また、このワークで話し合ったことを、「学級目標」づくりなどに活用することもできます。

5 教科などとのつながり

特別活動 など

6 進め方（展開例） 45分または50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 6分	◆学習の確認（2分） 授業の流れや留意点の説明を聞く。 ◆アイスブレーキング（4分） 「自分の幸せ時間」 ①自分が一日のうちで、一番幸せだと感じる時間を個人で考える。 ②グループで伝え合う。	- 授業の流れを説明する。 - P4「学習の約束」を伝える。 4人程度のグループで行う。 - 幸せだと感じる時間は、誰か（何か）によって守られている時間であることに気づけるとよい。	

展開 34分	◆アクティビティ（34分） ①子どもの権利条約について知る。 ②学級で守られていると思う権利と守られていないと思う権利について、ワークシートの1に書く。 ③カードを使いながらグループで話し合う。 ④グループでの話し合いをもとに、「一人ひとりの権利が守られる学級をつくっていくために特に大切だと思う権利」と、その理由を考え、ワークシートの2に書く。 ⑤④についてグループで話し合う。 ⑥学級全体で「一人ひとりの権利が守られる学級をつくっていくために、特に大切だと思う権利」について話し合う。	・「子どもが安心して健やかに成長するためにはどのようなことが大切・必要か」について、子どもたちの発言を十分に聞いてから、「子どもの権利条約」を知らせる。 ・子どもの権利条約カードをグループに配付する。 ・1つに決められないときは「ベスト3」で考えるよう促す。 ・一人ひとりが自分の考えを持って、自分の意見を話すことも、権利の1つであることに気づけるようにする。	・資料 ・ワークシート ・子どもの権利条約カード（黒板掲示用） ・子どもの権利条約カード（グループ配付用） ・グループ用ワークシート
まとめ 小学校 5分 中学校 10分	◆まとめ（小5分、中10分） ・子どもの権利について感じたことや気づいたこと、お互いの権利が守られるためにどのような学級にしていきたいと思ったかを、ワークシートの3に書く。 【中学生】 ・グループや全体で考えを共有する。	・お互いの権利が守られるために、自分に何ができるかを考えることにつなげる。 ・児童・生徒の記述はまとめて学級に掲示したり、学級目標をつくったりする際に活用するとよい。	・ワークシート

- ・自分も権利を持っているように、他者も権利を持っている。お互いの権利を知ること
- ・お互いをより尊重することができる。
- ・お互いの権利を守るために、自分にできることは何かを考えることが大切である。

<参考資料など>

- ・「『子どもの権利条約』を学級経営に生かそう」日本ユニセフ協会（令和6年12月）
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryo/pdf/CREhandbook.pdf>
- ・「子どもの権利条約カードブック」日本ユニセフ協会（令和4年8月）
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryo/pdf/cardbook.pdf>

みんなで考えよう、一人ひとりの権利

() 年 () 組 () 番 名前 _____

- 1 「子どもの権利条約カード」を見て、学級で守られていると思う権利はどれですか。
また、守られていないと思う権利はありますか。（「第〇条」の番号だけでもよいです。）

まも 守られている	い どちらとも言えない	まも 守られていない

- 2 一人ひとりの権利が守られる学級をつくっていくために、学級で特に大切だと思う権利はどれですか。
理由も書いてみましょう。1つに決められないときは、「ベスト3」を考えてみましょう。

えら 選んだもの	りゆう 理由

- 3 今日の授業を受けて、子どもの権利について感じたことや気づいたことはありますか。また、お互いの権利が守られるために、どのような学級にしていきたいと思いましたか。

こ 子どもの権利について感じたこと・気づいたこと
こ こんな学級にしていきたい（そのために自分ができそうなこと）

「子どもの権利条約カード」を置きながら、グループで話し合ってみましょう。

守られている まも	どちらとも言えない い	守られていない まも